

# VU (絶滅危惧Ⅱ類)

チドリ目 カモメ科

カテゴリー判定基準：B-2, 3; C-1

## コアジサシ

*Sterna albifrons sinensis* Gmelin, 1789

英名：【Little tern】

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
R	VU	VU

夏鳥として渡来する小型のアジサシ類。本州以南の海岸や河川敷に生息し、広い裸地で繁殖する。自然の河川敷や砂浜のほか、埋立地に一時的に造成された裸地を利用することが多い。繁殖地では、草地化による裸地の消失、卵や雛の捕食、造成工事やレジャーにより人為的攪乱を受ける事が多く、繁殖成功率は高くない。

*Sterna albifrons sinensis* is the smallest tern in Japan. This subspecies is a summer visitor to the central and southern parts of Honshu and to islands further south. It inhabits wetlands, and breeds in dry riverbeds, sandy coasts and reclaimed lands. Its breeding success is, however, poor due to vegetation transition, predation on eggs and nestlings, and human disturbance particularly relating to recreational activities and development/construction.

### 基礎情報

■**形態** 全長約23cm。体と翼の上面は淡灰色で、額、下面、尾羽は白色。成鳥夏羽は頭頂～後頭部が黒色、嘴は黄色で先端に小さな黒色部がある。脚は橙黄色。冬羽は額～頭頂部まで白色、嘴と脚は黒色になる。アジサシ (*S. hirundo*) はより大型で、夏羽では嘴と脚が黒色である。

■**分布域** 種としてはユーラシア大陸からヨーロッパ、アフリカ、オーストラリアに広く分布する。本亜種はロシア南東部、中国、日本、東南アジア、フィリピン、ニューギニア、オーストラリアに分布する。国内では本州（秋田・宮城県以南、稀に青森県）、四国、九州、琉球列島に夏鳥として渡来する。

■**生息環境** 主に内湾や沿岸域、河川（中・下流）などの水辺に生息する。砂浜海岸、埋立地の人工裸地、人工海浜、砂礫質の河川敷で繁殖する。

■**生活史** 日本には4月に渡来し、9月頃まで見

られる。河川や内湾に生息し、水中にダイビングして主に小型魚類を採食する。繁殖期は5～8月で、広い砂礫地に集団で繁殖する。地面を浅く掘った巣を造り、1～3卵を産む。抱卵日数は約20日。東京湾岸の浅瀬や干潟では8月に数千羽が集結することが知られる。

### 現在の生息状況

■**分布域の現況** 沿岸部や広い河川敷などで繁殖する。東京湾、大阪湾、伊勢湾岸など都市近郊の埋立地では年により大規模な営巣地が見られる。九州北部では1970～90年代に多数営巣していたが、近年は減少している。青森県では1979～82年の繁殖記録があるのみで、近年は報告されていない。

■**生息地の現況** 埋立地の人工裸地で長期にわたり繁殖地が維持されることは少ない。東京湾岸の幕張埋立地（千葉県千葉市）では人工裸地の土地利用が進み、1990年代以降数ヶ所あった繁殖地が2008年以降1～2ヶ所に減少、個体数も減少した。河川敷や砂浜海岸でも年により営巣地を変えることが知られている。経年的な傾向については十分わかっていない。

■**個体数の現況** 国内における繁殖個体数は5,000~10,000つがいとする推定もあるが、よくわかっていない。

### 存続を脅かす要因

埋立地では造成工事の進行(23)、裸地の草地化(54)により、繁殖に適した裸地が数年で失われることが多い。河川敷では増水(55)によりすべての卵や雛が流失することがある。また、釣りやアウトドアレジャーなどを目的に営巣地に接近したり車両を乗り入れることで攪乱を受けるほか(71)、卵が採取された事例もある(41)。カラス類(*Corvus* spp.)やチョウゲンボウ(*Falco tinnunculus*)による卵や雛の捕食(52-4)、ノネコによる捕食(52-3)も影響が大きい。

### 保護対策の現状

種の保存法に基づく国際希少野生動植物種。繁殖地の保全のため、行政・民間企業が保護区を造成したり、立入禁止区域を設置した事例がある。千葉県九十九里海岸や静岡県遠州灘海岸などの砂浜では、繁殖地の周囲を柵で囲ったり車両の乗り入れ規制をすることで効果を上げている。2001年に国内で初めて屋上営巣が確認された東京都の森ヶ崎水再生センターでは、

NPO法人らによる保全活動が継続的に行われている。河川の増水対策として中州の嵩上げなどの事例があるが、裸地を維持するには管理作業が不可欠となっている。埋立地の造成工事中に繁殖が確認された場合、工事区域の変更や一時中断、時には営巣適地への誘導などの調整が図られる事がある。

### 特記事項

とくになし。

#### 参考文献

- 林宏・岡田徹, 1992. わが国におけるコアジサシ *Sterna albifrons* の繁殖状況. *Strix*, 11: 157-168.
- 環境庁自然保護局・日本野鳥の会, 1994. 第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書(鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら). 環境庁自然保護局, 東京, 268pp.
- 環境省自然環境局, 2012. 平成23年度コアジサシ保全方策検討調査委託業務報告書. 環境省自然環境局, 東京, 196pp.
- 桑原和之・早川雅晴・石黒夏美・佐藤達夫・澤口晶子・笠井貞義・箕輪義隆・石毛久美子, 2000. 4-2. 東京湾岸, とくに千葉市周辺におけるコアジサシの繁殖状況. *東京湾の鳥類—多摩川・三番瀬・小櫃川の鳥たち—*, pp. 470-526. たけしま出版, 流山市.
- 桑原和之・箕輪義隆・早川雅晴・木幡冬樹・嶋田哲郎, 1997. 湾岸都市千葉市の鳥類3. コアジサシの生態, とくにその繁殖ステージについて. *湾岸都市の生態系と自然保護*, pp. 483-504. 信山社サイテック, 東京.
- 三河正男, 1980. 八戸市におけるコアジサシの繁殖記録. *青森県生物学会八戸支部研究資料* No.26.
- 竹内健悟, 1983. 津軽半島西海岸におけるコアジサシ *Sterna albifrons* の繁殖記録. *鳥*, 32: 32.

執筆: 箕輪義隆 (日本鳥類保護連盟囑託研究員)